

SCIX Report

2011年夏

3.11以降、原発の問題があり、各地で「節電」が叫ばれるなど、暗いニュースが続いている。

SCIXでは、「神戸からオリンピックへ」を合言葉に活動を進めていますが、同時に、「神戸から元気を」という思いも込め、地域が元気になるように、さらにその元気を日本中に送れるよう、頑張っていきたいと思っています。

***** Sports Community & Intelligence Complex *****

【第1回女子7人制ラグビー選手セレクション】**■ 2011年5月21日 in 灘浜グラウンド**

12時、美齊津理事の「SCIXでは、2016年のリオデジャネイロオリンピックに向け、女子ラグビーのパイオニアとして進んでいきたいと考えています。練習環境の提供はもちろんのこと、経験のない人もサポートしていく方針で、今日はその第一歩です」という挨拶から、第一回目となるセレクションが始まりました。

また、兵庫県高等学校体育連盟ラグビー専門部の財田コーチは、「SCIXさんと相談して、兵庫の女子は、一枚岩でやっていることまでまとまつた。現在、ラグビーは競技人口が減っているので、女子が元気に頑張って逆に男子を引っ張っていってくれるくらいになってほしい」と、今回のセレクションへの思いを口にされました。

その後、今村コーチ指導のもと、全体でウォーミングアップを行い、12時半から3グループに分かれ、体力測定が始まりました。項目は、50m走、たち幅跳び、握力、上体起こし、1000m走の5つですが、この時点でタイムなどによる足りりラインはありません。各個人の個性や特徴を活かせるような指導を目指していきたいから、というのが財田コーチのお話でした。

体力測定のラストを1000m走で締めくくったところで、引きつづき、ボールを使ってのスキルテストが行われました。

8の字、ハンドリング、リフィティング、キッキング、1対1、2対1。

未経験者は、ボールの扱いそのものに戸惑っている様子でしたが、コーチ陣からキックのコツ（つま先を曲げないで伸ばす、ボールを少し斜めに構える、など）から、パスの受け方、声を出すタイミングまで丁寧な指導が行われると、最初は少し不安そうな表情を浮かべていた参加者たちの顔も、徐々にリラックスしたものへと変わっていきました。

14時、テスト終了。財田コーチより、6/1頃を目処に結果を報告するが、選考は今後も続けていくつもりなので、もし今回ダメだった人も練習には参加してもらいたい。やる気のある人をどんどん選んでいきたいとの説明があり、参加者たちは皆、充実した表情でグランドを後にしました。



【SCIXラグビークラブ高校生男子】

■2011年5月21日 兵庫県民大会 in 瀬戸内グラウンド

女子ラグビーのセレクションの余韻が残る瀬戸内グラウンドで、SCIX ラグビークラブ高校生の部が唯一参加できる公式戦、兵庫県民大会が行われ、科学技術高校と試合を行いました。

SCIX の白いジャージに泥が跳ねて黒い染みを作り、腕で顔を拭うと袖が赤く汚れ、グラウンドの中だけでなく外からもみんなが大声を張り上げ、全身全霊をかけてボールや相手に向かっていく、そんな白熱した戦いでしたが、残念ながら 10 対 70 という大差で敗れ、選手たちは悔し涙を流していました。

三年生にとっては最後の試合となり、試合後の円陣では、選手たちだけでなくコーチたちの目にも涙が光っていました。



【第1回SCIXカップ 兵庫県高等学校セブンズ大会】

■2011年6月19日 in 瀬戸内グラウンド

濃霧注意報が発令されていた曇天のこの日、第1回目となる SCIX カップが開催され、13 校が参加、SCIX を含めた計 16 チームがトーナメントを戦いました。

開会式で挨拶に立った、SCIX 平尾理事長は、「高体連の先生方と協力して、こうして第1回目となるセブンズ大会が実現しました。現在、ラグビーといえばW杯が中心だけれど、今後は、W杯とセブンズ、両方の大会が主流になっていくと思う。そういう意味でも、どんどん積極的に参加し、頑張ってほしい」と述べ、最後に「今日は楽しんで」と、締めくくりました。

午前 10 時、いよいよ試合スタート。第1回戦のみ 5 分ハーフで行われるもの、2 回戦以降は通常のセブンズと同様 7 分ハーフで行われます。トーナメントとはいって試合数も多いため、各コーチからはくれぐれも体調には気をつけるようにとの呼びかけがありました。

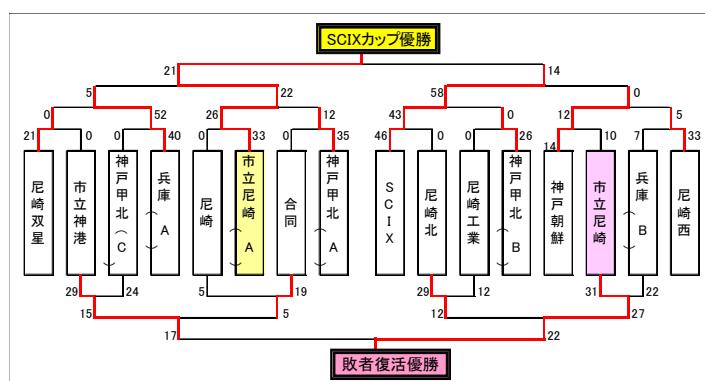
試合は、全体を通して、一人が飛び出すとそのまま独走になりトライに結びつくという展開が多かったものの、やはりパスの技術が高いチーム、ボールの扱いが巧みで多少のことではファンブルしないチームには、安定した力強さを感じられました。

また、多少ぶつかってこられようとも 1 回の当たりくらいでは倒されない強靭な選手、軽快なフェイントやステップで 2,3 人の DF を振り切る選手、全速力で駆け抜けてくる相手に臆することなく構え、低い姿勢でタックルに入り一発で仕留めてしまう選手には華があり、グラウンド外からも大きな歓声が飛んでいました。

なかでも SCIX は、正確なパス回しとスペースを活かした攻撃で得点を稼ぐと同時に、連携の取れた守備で決勝までの全ての試合を 0 点に抑え、個人のスキルだけではなく、チームとして息のあったところ、完成度の高さを見せてくれました。

試合結果は、以下のとおりです。

- ◎ SCIX カップ優勝 : 市立尼崎高校 (A)
- ◎ SCIX カップ準優勝 : SCIX ラグビークラブ
- ◎ 敗者復活戦優勝 : 市立尼崎高校 (B)



【第1回女子セブンズアカデミー練習】



■2011年6月25日 in 瀬浜グラウンド

セレクションで選ばれた32名のうち21名が参加して、この日、第一回目の合同練習が行われました。指導には、SCIXコーチ陣のほか、日本ラグビー協会セブンズ強化コーチの勝田コーチも参加してくださいました。

梅雨の晴れ間となったこの日、練習開始の15時でもまだ日差しが強く、平尾理事長からは、「暑い中での練習なので、中身のある練習にしましょう」と声がかかりました。また、勝田コーチは、「日本女子代表は、昨日、39度のなか合宿を行いました。今度、インドで試合がありますが、インドはもっと暑い。自分たちはそういう環境で試合をしていくのだ、世界と戦うということはそういうことなのだということを意識してほしい」と、激励の言葉が飛び出しました。「いまはまだ想像できなくても、嘘でもいいから、いつかオリンピックに出るのだと考えてほしい」。

その後、今村コーチ指導の元、ウォーミングアップを行い、15時20分頃から体力測定が行われました。

まずは、“マルチステージフィットネス”という、曲が流れている間に20mを走るというものから。20m走を延々繰り返すのですが、だんだん曲のペースが速くなるので、最初は余裕だった選手たちも、だんだんついていくのがやっとになっていきます。代表の平均は110回で、トップは123回ということでしたが、今回のメンバーは、40回を過ぎたところで一人目の脱落者が出て、50回を過ぎたところで半分がギブアップ。80回を過ぎたところで残り2名となり、95回が最終でした。暑さもあって、かなり過酷なフィットネスといったところでした。

休憩を挟んで、60m Sprint、たち幅跳び、五段跳び、体幹の強さを測定しました。

その後、経験者と未経験者に分かれ、ボールを使っての練習に移りました。それぞれ攻撃と守備に分かれ、5回パスを繋いだらOKというミニゲームからスタートです。ここで勝田コーチがおっしゃっていたのは、「セブンズがどういったものか、15人制とどう違うのかしっかり理解して帰ってほしい」ということでした。

ゲームはまず、小さなスペースで行い、ボールを持った人は動いてはいけないというルールで始まりました。次に、スペースを広くして。今度は、DFを一人減らして。最後は、ボールキャリアも動いていい、というルールで行い、制約をどんどん減らしていました。

セブンズの試合では、DF側は、一人がFBの位置にいるため、DFは一人少なくなります。しかし、単にパスを繋いでいくだけでは、この数的優位を活かしきることはできません。では、どうすればよいか？ ボールを持った選手が自ら動き、どんどん相手に仕掛けていくこと、これが大事。そうすることでDFがボールキャリアの周りに集まり、外側にスペースができます。7人制は、15人制と同じグラウンドで試合をするため、一人が使えるスペースが断然広くなります。そこで、この内→外、外→内という攻撃が有効になる、ということでした。

制限を次々減らしていく練習の意図には、このことを経験し、体で覚えてほしいという狙いがあったようです。

最後に、このことを意識しながらタッチフットボールを行い、練習終了となりました。



【SCIX総会】

6月27日、総会が行われ、H22年度の事業・会計収支報告とH23年度の事業計画が発表されました。

H22年度は、過去の活動を継続しながら、さらに“7人制ラグビー”、“女子ラグビー”を展開した1年でした。7人制ブロックアカデミー事業として、7月には、10周年記念事業のひとつである『SCIX KOBE ラグビーフェスティバル2010』を開催。1月には、関西の女子選手（小・中・高校生）を対象に、『セブンズブロックアカデミー講習会』を実施したことなどが、主に報告されました。

また、10周年記念イベントであった『SCIX KOBE スポーツシンポジウム』の開催も報告されました。

H23年度の事業計画としては、“神戸からオリンピックへ”をキーワードに、主に“7人制ラグビー”、“女子ラグビー”、“スペースボール”的普及・育成活動を実施していくこと、また、SCIXスポーツインテリジェンス講座を開催する予定であることが発表されました。

最後に、平尾理事長から、「去年、SCIXはぶじに10周年を迎えることができました。今後は、新たな10年に向けて皆さんのお力、お手を借りていきたいと思っています。実は、10周年イベントを終えて、知名度が上がり、問い合わせなどが増えました。どういうことが出来るのか選んでいきたいと思っていますが、NPOとは、公共では貢えないところを民間で補っていくものである、という考えは変わりませんので、地域が元気になるよう、皆さんと一緒に行きたいと思います」と、挨拶がありました。



【SCIXレフリーアカデミー】

■「SCIX・レフリーアカデミー」開校式

日時:2011年7月2日(土)12:00~18:30

場所:STEELERS クラブハウスビジター・神戸製鋼灘浜グラウンド

7月2日(土)、SCIX・レフリーアカデミー開校式並びに第1回目の講義がおこなわれました。今回第1期生として参加したのは、3名(一人は諸事情により欠席)。

開校式ではSCIX理事長の平尾誠二氏が挨拶で、現在のラグビー界におけるレフリーの重要性を話し、続いて日本ラグビー協会審判委員長岸川氏からアカデミ一生に激励の言葉が送られました。



開校式の後、関西ラグビー協会審判委員長の太田氏、レフリーコーチの藤実氏が座学形式で、レフリーのポジショニングなど約2時間講義を行いました。

初回はポジショニングを中心とした内容の講義でした。レフリーはひとつひとつの動きに意図を持ちながら、常に状況に合わせてポジショニングすることが大切であるという話はレフリーの奥深さを表しているように思いました。

アカデミ一生から多くの質問があり、2時間では足りないほど充実した内容でした。



その後、神戸製鋼対豊田自動織機の試合を観戦し、藤実氏が中心となって、レフリーを担当したA1レフリーの真継氏のレフリングをアカデミ一生に解説する実戦講義が行われました。

理想のポジショニングはあるが、その位置に無理に行く行為が選手の動きを妨げる事もあるという、普段聞くことができないレフリーコーチ視点の解説には、アカデミ一生多くの事を得たように思います。



【入会案内(ご参考)】

(会員・会費について)

会員種別		入会金	年会費
正会員	個人会員	—	5,000円
	団体会員	1口 100,000円(何口でも可)	100,000円
サポーター	個人会員	—	2,000円
	団体会員	1口 50,000円(何口でも可)	50,000円

(お問い合わせ)

SCIX事務局 〒651-8585

神戸市中央区脇浜町2-10-26

tel : 078 (261) 4046

e-mail : scixinfo@scix.org

SCIXは、みなさまのボランタリーな支援によって支えられています。

【発行人】SCIX事務局 今村 順一

【編集】小林 尚美

【発行元】SCIX事務局

〒651-8585

神戸市中央区脇浜町2-10-26

tel : 078 (261) 4046

e-mail : office@scix.org